

2021年2月24日(水)

祈禱会の皆様、

おはようございます！（夜の祈禱会の皆様、こんばんは！）祈禱会の時間です！

今日からいよいよ旧約聖書の哀歌を見ていきます。

【テーマ】「嘆きと悔い、そして希望」②慰める者はだれもない

【聖書のみ言葉】哀歌1章を読みましょう。

【解説】

哀歌1章には、エルサレムの崩壊（紀元前587/586年）の大混乱とその後の様子が、第三者の視点から客観的に（1-11）、当事者の視点から主観的に（12-22）記されています。それ以外には、アクロスティックで構成されているだけで、特にまとまった構成はありません。むしろ、突然の大惨事で家族を失った人が、悲痛と混乱の中で、ただ茫然とを廃墟を眺めているかのように描かれています。失望感と孤独感によって、「慰める者はだれもない」と繰り返し歌われています（2, 9, 16, 17, 21）。

都には廃墟だけが残り、王も敵に連れていかれ（1）、悲痛に泣き叫ぶ声だけが響いている（2）。民は敵に捕囚とされ（3）、祭司も祈ることもできずにうめき、女性たちも悲しみに伏している（4）。子どもたちさえも容赦なく捕らえられてしまった（5）。これまで民が誇りとしてきたものは、民が罪を重ねてきたために全て破壊され、民は無気力な状態でさまよっている（6-11）。

人々よ、あなたたちは分かっているのだろうか。これは主が私たちの罪の故にもたらされた裁き（12-13）。主は力ある者から若者たちまで踏みつぶされた（14-15）。私たちは悲痛で嘆いている。しかし、私たちがどれだけ懇願しても、私たちを慰めてくれる者は誰もいない。皆私たちに敵対している。子どもたちは立ちずくんでいる（16-17）。主は正しいお方であるのに、私たちは主に従わなかった。だから私たちは今苦しみに遭っている（18）。これまで助けを求めてきた祭司たちも長老たちも、すでに死んだ（19）。主よ、私たちは苦しんでいます。私たちを憐れんでください。私たちへの悪に報いて下さい（20-22）。

【適用】

私たちも悲痛な経験をすることがあります。それは自らの罪の結果かもしれませんが、そうではないかもしれません。「誰からも慰めを得られない」と絶望感や孤独感を覚えることもあるかもしれません。しかし、主は決して私たちを見放さず、見捨てません（ヘブル13:6）。あきらめずに、主の憐れみを祈り求めましょう。

【祈り】下記の祈りの課題を覚えて祈りましょう（主に、週報から）。その他にも個人的な祈りの課題があれば、祈りましょう。＊皆さんに共に祈ってほしいということが何かありましたら、牧師までご一報ください。ありがとうございました！

また来週、配信致します。

百合丘キリスト教会

川井信雄

（「祈禱会の時間です！」の受信をご希望の教会員の方には転送して下さい。その他、通常祈禱会に来て下さっている方にもどうぞ。その際、次回直接メールできるように、私にもCCして頂ければ感謝です。）